

## 第3回 IAEA 廃炉レビューミッションについて

### 1. 概要

福島第一原発の廃炉に向けた取組について、国内外の叡智を結集し、国際社会に開かれた形で進めていくため、IAEAの合意に基づき、IAEA及び各国の専門家からなる調査団がレビューを実施。

前回（第2回）では、汚染水問題発生後の日本政府の積極的な姿勢や、汚染が港湾内に限定されていることについて評価された。

今回（第3回）のレビューは、福島第一原発のリスクの低減や事故炉の安全な廃炉対策の進展等について、評価、助言を受けたもの。

（参考）第1回	2013年4月15日～22日
第2回	2013年11月25日～12月4日
第3回（今回）	2015年2月9日～17日

### 2. 報告書の概要

（1）評価：20項目 助言：15項目

（2）主要な評価項目

- ① 東京電力廃炉推進カンパニー、原賠・廃炉機構（NDF）の創設は、廃炉・汚染水対策にとって良い進展。
- ② 廃炉・汚染水対策は、4号機の使用済燃料プールからの燃料取り出しの完了、浄化システムの改良・拡充、タンクの更新が進んでいることなど、いくつもの分野において着実に進展している。
- ③ 中長期ロードマップの改訂に向けて、NDFが策定中の戦略プランに掲げられているリスクの特定、定量化、優先順位の明確化をするとともに、燃料デブリ取り出し工法について複数の選択肢を策定しようとすることを評価。

（3）主要な助言項目

- ① 廃炉プロセスにおいては、各対策に多くの選択肢が発生するが、ステークホルダー間で継続的に協議すること。
- ② 廃棄物管理に当たっては、各ステージ（事故直後、保管、処分など）において、最適な方法を選択すること。
- ③ 保管されている汚染水について、より持続可能な解決策が必要である。トリチウムを含む水について、海洋放出を含む全ての選択肢を検討すること。ステークホルダーとよく協議すること。（第2回と表現は同じ。）